

●ポスターセッション (P-土壌・地下水汚染と修復-P-G01～P-G12)

P-G01 は、電子顕微鏡を用いると、ヒ素及び鉛汚染土壌が人為汚染か自然由来かを判断できることを確認したことが報告された。判別が困難な試料もあったが、今後、検討するという事だった。

P-G02 及び P-G03 は調査報告であった。P-G02 はヒ素汚染地下水のイオン類を測定し、汚染地下水はアルカリ炭酸塩型の停滞性地下水であると示唆されたことが報告された。P-G03 は、地下水の有機フッ素化合物を測定し、USEPA の勧告値を超過するものがあつたことが報告された。

P-G04 は VOC 複合汚染土壌を現地で浄化対策を行っている事例が報告された。浄化方法は、揚水曝気法とバイオレメディエーションを用いていた。

P-G06 では、トリクロロベンゼンの脱塩素化活性を確認したことが報告された。

P-G07 では、あじさいを用い、水銀汚染土壌浄化を行った結果が報告された。ポット栽培試験で、1株から約 1.6  $\mu\text{g}$  の水銀が土壌から除去されることが明らかとなった。

P-G08 はドリン系農薬類似構造物質を資化する微生物を用い、ドリン系農薬が分解できることを確認した。ドリン系農薬汚染土壌のバイオレメディエーションの実用化に貢献するものと期待される。

P-G09 では、土壌汚染物質の人等への曝露可能性を推定するためのスクリーニング法を検討したことが報告された。

P-G10 では、土壌試験を簡易で低コストの試験方法であるパックド試験法で検討したことが報告された。メーカーの違いにより、結果が異なることが指摘された。さらに検討することにより、スクリーニング方法として利用できると思われる。

P-G11 では、海成層の土壌を掘り起こし、長期間放置することによって重金属汚染が引き起こる可能性について検討したことが報告された。また、海成層の判別方法についても検討しており、海成層による土壌汚染を未然に防ぐことができると期待される。

P-G12 では、簡易型地下水流向流速計を開発したことが報告された。電気を使用せず、低コスト（約 1 万円）である。今後、実用化レベルまで開発が進み、市販されることが望まれる。

(福岡県保健環境研究所・水質課 石橋 融子)